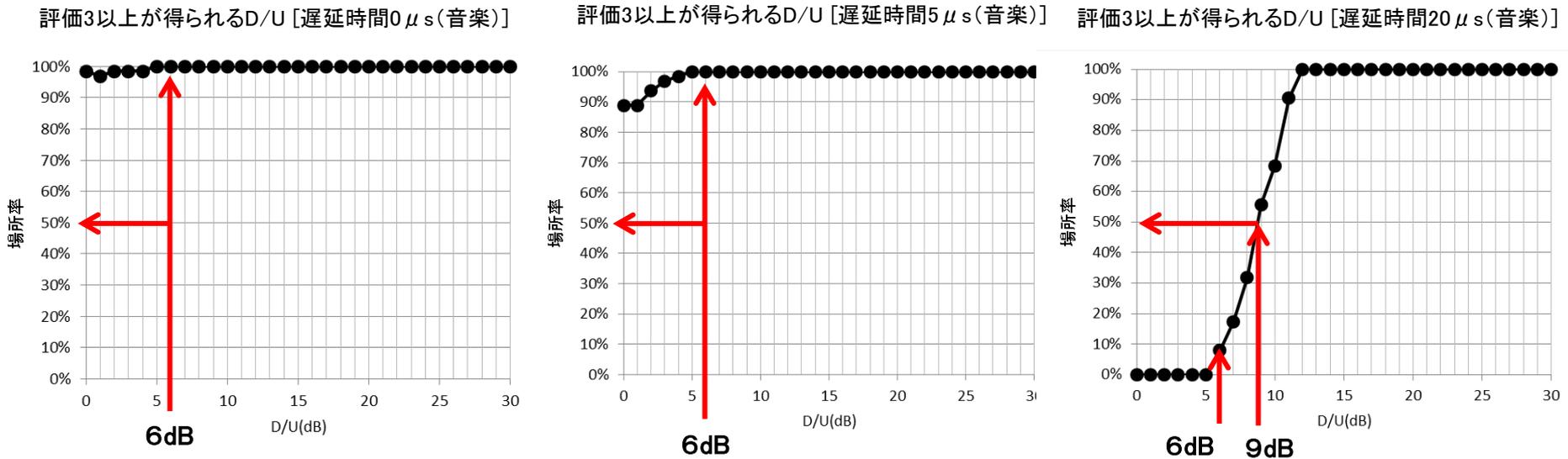


第2回作業班からの変更事項について

平成27年2月25日
ギャップフィラー作業班

1. 前回資料「資料GF作2-3」場所率について

「主観評価3以上」を得られる「場所率とD/Uの関係」を実験により測定した。



受信品質「主観評価3以上」に関する技術的要件(案)

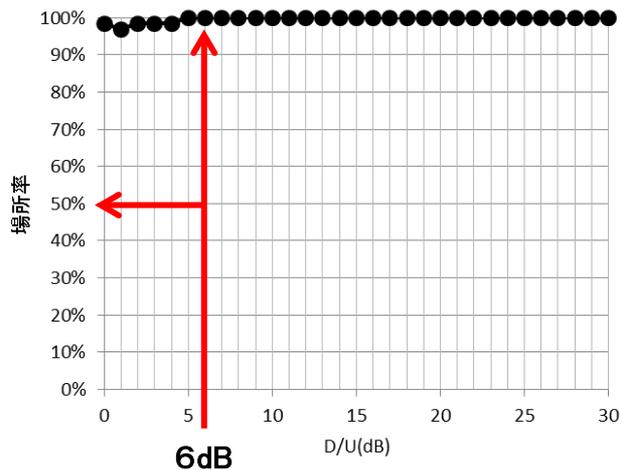
		放送区域の重なり ^{※1}		ギャップフィラー局間の同期放送の条件		
		上位局	GF局	周波数偏差	許容される遅延時間	D/U
GF一段		無し	無し	—	—	—
GF二段		無し	無し	—	—	—
GF	CATV1	無し	無し	—	—	—
	CATV2	無し	有り D/U=0dB	完全同期 ^{※2}	5 μ秒以下	0~6dB以下
コミュニティFMモデル(例)		—	送信点同士の重なり有り D/U=0dB	2 Hz以下	5 μ秒超~20 μ秒以下	6dB以上
					20 μ秒以下	14dB以上

- ・遅延時間が「5 μ秒以下の場合」はD/U=6dB以下であると考えられ場所率50%以上確保されている。
- ・遅延時間が5 μ秒以上の場合、平成9年の報告書では5 μ秒の時にC/Nが6dB以上あれば主観評価で3以上とされているが、今回の追試では主観評価3以上となる場所率50%のC/Nは9dBであった。グラフからも読み取れるように場所率はC/Nの変動が5dBから13dBまで急激に変化しており、誤差内とも考えられることから、従来の検討結果のとおり「5~20 μ秒以下の場合」はD/U=6dB以上で場所率50%以上と考えることが適当と思料される。

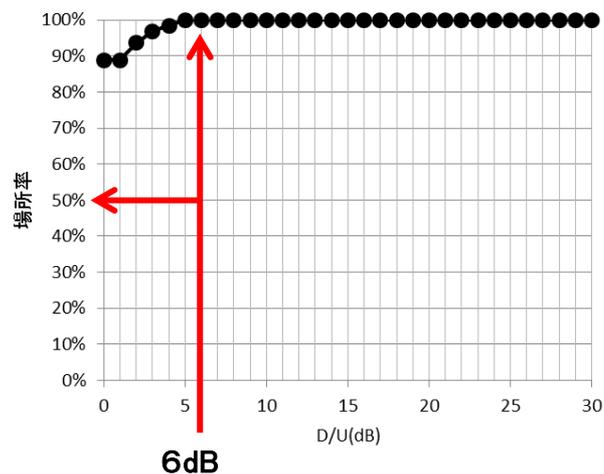
2. 遅延時間10 μ 秒の場合の測定結果

前項の前回資料では、「CATV2 5 μ 秒超~20 μ 秒以下 D/U=6以上」について補足が必要であったため、遅延時間10 μ 秒の場合の測定を行った。

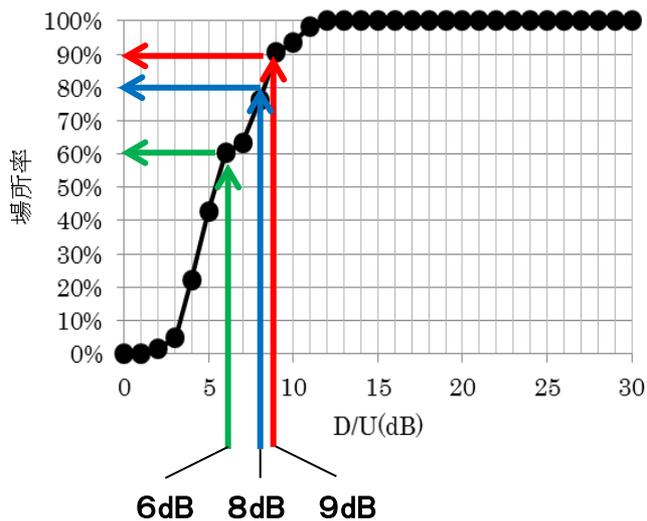
評価3以上が得られるD/U [遅延時間0 μ s(音楽)]



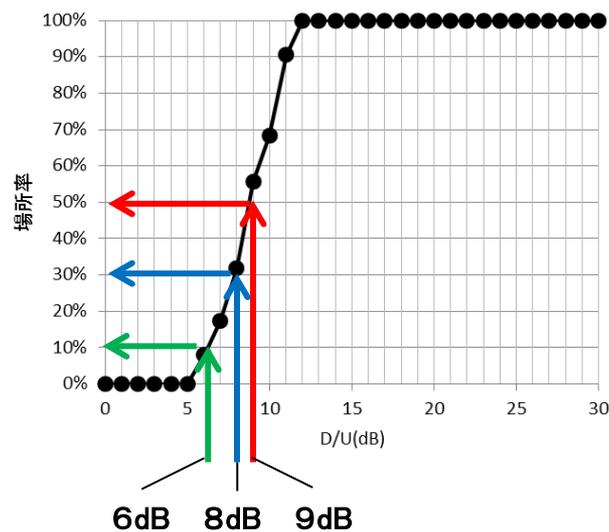
評価3以上が得られるD/U [遅延時間5 μ s(音楽)]



評価3以上が得られるD/U [遅延時間10 μ s(音楽)]



評価3以上が得られるD/U [遅延時間20 μ s(音楽)]



3. 第2回作業班からの修正事項

2つの送信所から送信される電波が同期の技術的条件を満たしている場合でも発生する干渉妨害領域を推定するための同期テーブルは、以下による。

同期テーブル1

遅延時間差(μ sec)	混信保護比(dB)		
	主観評価2	主観評価3	主観評価4
2		3	9
5		6	12
10		8	17
20	9	14	20
50	21	30	36
100	30	37	45
200	21	28	35
500	22	32	40

表2-4.1 主観評価に対する遅延時間差と混信保護比の関係
(条件: 信号ソース ピアノ)

前項の実験結果から、

10 μ 秒では8dBで80%

20 μ 秒では8dBで30%

10 μ 秒では9dBで90%

20 μ 秒では9dBで50%

10 μ 秒以上～20 μ 秒未満で、左表の既存の規定と今回の実験結果の両方を包含し50%を確保するため、「9dB以上」とする。

	放送区域の重なり※1		ギャップフィルア局間の同期放送の条件		
	上位局	GF局	周波数偏差	許容される遅延時間	D/U
CATV網を利用した複数のギャップフィルア	無し	有り D/U=0	完全同期※2	5 μ 秒以下	0～6dB以下
				5 μ 秒超～10 μ 秒未満	6dB以上
				10 μ 秒超～20 μ 秒未満	9dB以上
上記以外のギャップフィルア	無し	無し	—	—	—
コミュニティFM	—	送信点同士の重なり有り D/U=0	2Hz以下	20 μ 秒以下	14dB以上

※1 上位局又は他のGF局との混信保護比は36dB以上必要

※2 高周波搬送波が位相で同期していること

— の項目は考慮の必要なし